

手続き思考について

田中 浩蔵 (TANAKA KOUZOU)

人間は言葉で考え、思考は言葉がなければできないと理解されています。しかし、人間は、はたして言葉によってのみ考えているのだろうか。さらに、言葉をもたない犬や猫などの動物は、思考をもたないのだろうか。私は、動物も考え、そして人間も動物も同じく、言葉によらない思考の機能・能力をもつと考えます。それが「手順・手続きの思考（以下、「手続き思考」という。）」です。手続き思考とは、もの・ごとの処理や課題の解決に係る手順・手続きを考えることです。人は、ピアノを弾くとき、言葉がなくともピアノのキーを一定の順序でたたくことで音楽を生み出します。そこで思考されているのは、キーを叩く順序と（運指法などの）手続きです。楽譜は、そのピアノのキーをたたく手（足）の操作の手順・手続きを表わしたものです。また囲碁など多くの遊びに働く思考そのものは言葉を介しているわけではないと考えます。囲碁の棋士が考えるのは、白黒の石と碁盤の目を手掛りとして、一定のルール（手続き）のもとでどの場所にどんな順序で石を置くかの手順・手続きです。将棋の棋士が考えるのは、自分の王を守り、相手の王を追い詰めるためにどの駒をどんな順でどの場所に動かす（指す）かの手順・手続きです。囲碁、将棋の棋譜は、碁石や駒を置き、動かす手順・手続きを表わしたものです。（将棋の駒には文字が使用されますが、勿論、それは将棋盤上の駒の機能を表すための記号であり、「王将」や「金将」が文字どおりの「王様」や金属の「金」を表現しているわけではありません。）

およそ、日々の生活の仕方やルール、道具やものの使用法、システム、社会制度は、手続き思考がもたらすものです。道具や器具の使用書が指し示すのは、その使用の手順・手続きです。薬局からでる処方箋が指示するのは、薬の飲み方の手順・手続きです。スポーツや娯楽のルールは、遊び用具の取り扱いの手順・手続きを表わしています。法律には訴訟等の手順・手続きの規定が付きます。そして科学技術の思考は、道具操作の手続き思考そのものです。こうしてみるとヒトの思考は、その大半が手順や手続きの思考からなっていると言えます。

私たちは、手順・手続きの思考を言葉で表現しますから、思考は言葉であるものと思いがちですが、手順・手続き思考そのものは言葉に依存してはいません。手続きの思考そのものは、非言語的思考です。手順、手続きに係る思考そのものは、言語がなくても考えることができるようにできています。そして、手続き思考は、単に人間だけの思考ではなく、動物一般に備わった思考です。人間、動物の行動そのものは、身体操作の手順・手続きの実行によって生み出されるものです。ヒトや動物が行動するときの身体操作に

は、動物にも人間と同じように手続き思考が働きます。生物の生命活動そのものは手続き思考で成り立っているのです。

手続き思考は非言語的思考ですから、言葉は手続き思考にとって思考の手掛り・手段にすぎません。が、道具を使用することで、手続き思考を身体以外のものに及ぼす人間にとって、言葉は手続き思考の能力を高める最も有効で強力な手段です。この言葉を手段とした手続き思考が人間の手続き思考の機能・能力を格段に高めました。そして、それが今日の人間の科学、文明を築いたのです。